

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7601609号
(P7601609)

(45)発行日 令和6年12月17日(2024.12.17)

(24)登録日 令和6年12月9日(2024.12.9)

(51)国際特許分類		F I		
F 1 6 M	11/20 (2006.01)	F 1 6 M	11/20	Q
A 4 7 B	97/04 (2006.01)	A 4 7 B	97/04	
F 1 6 M	11/00 (2006.01)	F 1 6 M	11/00	Z
F 1 6 M	11/22 (2006.01)	F 1 6 M	11/20	R
F 1 6 M	11/34 (2006.01)	F 1 6 M	11/20	T
請求項の数 12 (全22頁) 最終頁に続く				
(21)出願番号	特願2020-183578(P2020-183578)	(73)特許権者	000000561	
(22)出願日	令和2年11月2日(2020.11.2)		株式会社オカムラ	
(65)公開番号	特開2022-73538(P2022-73538A)		神奈川県横浜市西区北幸二丁目7番18号	
(43)公開日	令和4年5月17日(2022.5.17)	(74)代理人	100149548	
審査請求日	令和5年8月16日(2023.8.16)		弁理士 松沼 泰史	
		(74)代理人	鈴木 三義	
		(72)発明者	▲高▼橋 延忠	
			神奈川県横浜市西区北幸二丁目7番18号 株式会社オカムラ内	
		(72)発明者	加藤 孝一朗	
			神奈川県横浜市西区北幸二丁目7番18号 株式会社オカムラ内	
		(72)発明者	森田 さやか	
			最終頁に続く	

(54)【発明の名称】 スタンド

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

床面上を走行可能なキャストが設けられ、上下方向を厚さ方向とする平板状に形成されたベース体と、

前記ベース体に支持され、棒状に形成された支持棒体と、

前記支持棒体に囲まれた内部に設けられ、左右方向に延びる長尺状の横部材と、

前記支持棒体の内部に設けられ、モニタを支持するモニタ支持部材と、を備え、

前記支持棒体は、

左右一対の縦棒部材と、

前記一対の縦棒部材の上端部どうしを連結する上棒部材と、を有し、

前記モニタ支持部材は、前記上棒部材の下方であって、前記縦棒部材の前後方向の中央よりも後側に配置され、

前記横部材は、前記上棒部材よりも下方に配置され、

前記モニタ支持部材は、前記横部材の上方に配置され、

前記横部材の上面は、上方を向いているスタンド。

【請求項2】

前記ベース体は、錘部材が着脱可能な取付部を有する請求項1に記載のスタンド。

【請求項3】

前記ベース体は、

前記取付部が設けられたベース本体と、

前記ベース本体及び前記錘部材を覆うベースカバー材と、を有する請求項 2 に記載のスタンド。

【請求項 4】

前記ベース体は、前後方向視して、前記支持枠体の左右方向の範囲内に配置されている請求項 1 から 3 のいずれか一項に記載のスタンド。

【請求項 5】

前記縦枠部材の内部には、上下方向に連通し、配線を配置可能な縦配線空間が形成されている請求項 1 から 4 のいずれか一項に記載のスタンド。

【請求項 6】

前記縦枠部材における左右方向の内側を向く壁部には、前記縦配線空間に連通する配線貫通孔が形成されている請求項 5 に記載のスタンド。

10

【請求項 7】

前記支持枠体は、
前記一对の縦枠部材の下部どうしを連結する下枠部材を有し、
前記下枠部材の内部には、左右方向に連通し、配線を配置可能であるとともに、前記縦配線空間と連通する下配線空間が形成されている請求項 5 または 6 に記載のスタンド。

【請求項 8】

前記下枠部材は、
下方に向かって凹んで上方に開口し、内部に前記下配線空間が形成された第一下側部と、
前記第一下側部の上側に着脱可能に設けられ、前記下配線空間を閉塞可能な第一上側部と、を有する請求項 7 に記載のスタンド。

20

【請求項 9】

前記縦枠部材は、
左右方向の外方に向かって凹んで内方に開口し、内部に前記縦配線空間が形成された外側部と、
前記外側部の左右方向の内側に着脱可能に設けられ、前記縦配線空間を閉塞可能な内側部と、を有する請求項 5 から 8 のいずれか一項に記載のスタンド。

【請求項 10】

前記支持枠体には、把持可能な把手が設けられている請求項 1 から 9 のいずれか一項に記載のスタンド。

30

【請求項 11】

前記横部材は、
下方に向かって凹んで上方に開口し、内部に配線を配置可能な横配線空間が形成された第二下側部と、
前記第二下側部の上側に着脱可能に設けられ、前記横配線空間を閉塞可能な第二上側部と、を有する請求項 1 から 10 のいずれか一項に記載のスタンド。

【請求項 12】

前記横部材は、
左右方向に延び、内部が中空に形成された外筒部と、
前記外筒部の内部に配置され、左右方向に移動可能とされた挿通部と、
前記挿通部が前記外筒部の端部から突出した状態で、前記外筒部と前記挿通部とを連結可能な連結部と、を有し、

40

前記連結部は、
頭部と、
前記頭部から前記挿通部側に延び、前記頭部の径よりも小さい径で形成された連結本体と、を有し、

前記外筒部には、左右方向に延び、第一孔及び第二孔を有する外側孔が形成され、
前記第一孔は、前記連結本体が配置可能且つ前記頭部が配置不可能な大きさで形成され、
前記第二孔は、前記頭部が配置可能な大きさで形成され、
前記挿通部が前記外筒部の端部から突出し、前記第二孔に前記頭部が配置された状態で

50

、前記連結本体は前記外筒部と前記挿通部とを連結するとともに、前記挿通部が前記支持枠体に係止されている請求項 1 から 11 のいずれか一項に記載のスタンド。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、スタンドに関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来から、オフィスや研究施設、病院、学校などの執務空間には、移動可能なスタンドが設置されている場合がある。

【0003】

床面上を走行可能なキャストが設けられたベース体と、ベース体から上方に延びる連結部に支持され四方枠状に形成された枠体と、枠体の内部に配置された梁材と、梁材に係止されたボード材と、を備えたスタンドが知られている。このスタンドのベース体は、連結部の下部から直線状に延びる複数の脚部材を有している（下記の特許文献 1 参照）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【文献】特開 2019-83905 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかしながら、利用者が上記のスタンドの枠体等を把持してスタンドを移動させる際に、ベース体の直線状に延びる複数の脚部材が利用者の下肢によって引っかかりにくい構造が望まれている。

【0006】

そこで、本発明は、上記事情に鑑みてなされたものであり、移動させる際に利用者の下肢がベース体に引っかかることが抑制されたスタンドを提供する。

【課題を解決するための手段】

【0007】

上記目的を達成するために、本発明は以下の手段を採用している。

すなわち、本発明に係るスタンドは、床面上を走行可能なキャストが設けられ、上下方向を厚さ方向とする平板状に形成されたベース体と、前記ベース体に支持され、枠状に形成された支持枠体と、前記支持枠体に囲まれた内部に設けられ、左右方向に延びる長尺状の横部材と、前記支持枠体の内部に設けられ、モニタを支持するモニタ支持部材と、を備え、前記支持枠体は、左右一対の縦枠部材と、前記一対の縦枠部材の上端部どうしを連結する上枠部材と、を有し、前記モニタ支持部材は、前記上枠部材の下方であって、前記縦枠部材の前後方向の中央よりも後側に配置されて、前記横部材は、前記上枠部材よりも下方に配置され、前記モニタ支持部材は、前記横部材の上方に配置され、前記横部材の上面は、上方を向いている。

【0008】

このように構成されたスタンドでは、支持枠体を支持するベース体は、上下方向を厚さ方向とする平板状に形成されている。上方からベース体を見ると面積が広く、ベース体は視認性が高い。よって、スタンドをキャストによって移動させる際に、利用者はベース体を視認できるため、利用者の下肢がベース体に引っかかることが抑制される。
また、モニタを支持するモニタ支持部材は、支持枠体の前後方向の中央よりも後側に配置されている。よって、モニタ支持部材にモニタを支持させた状態で、モニタが支持枠体よりも前方に突出することが抑制される。スタンドを移動させる際に、モニタが他の物品等と衝突することが抑制される。

【0009】

10

20

30

40

50

また、本発明に係るスタンドでは、前記ベース体は、錘部材が着脱可能な取付部を有してもよい。

【0010】

このように構成されたスタンドでは、支持枠体にモニタ等の重量物を取り付ける場合に、ベース体の取付部に錘部材を取り付けて重心を下方にすることで、スタンドの安定性を高めることができる。また、支持枠体に重量物を取り付けない場合には、ベース体の取付部に錘部材を取り付けないようにすれば、スタンドが軽くなり、スタンドを軽い力で移動させることができる。

【0011】

また、本発明に係るスタンドでは、前記ベース体は、前記取付部が設けられたベース本体と、前記ベース本体及び前記錘部材を覆うベースカバー材と、を有していてもよい。

【0012】

このように構成されたスタンドでは、ベース本体及び錘部材はベースカバー材で覆われているため、ベース本体及び錘部材の露出が抑制され、外観を向上させることができる。

【0013】

また、本発明に係るスタンドでは、前記ベース体は、前後方向視して、前記支持枠体の左右方向の範囲内に配置されていてもよい。

【0014】

このように構成されたスタンドでは、ベース体は、前後方向視して、支持枠体の左右方向の範囲内に配置されている。よって、複数のスタンドを直線状ではなく傾斜させて（上方から見てV字状となるように）隣接配置した場合に、隣り合うスタンドのベース体どうしが干渉することがない。また、支持枠体の左右方向の端部を持ってスタンドを移動させる際に、利用者の下肢とベース体とが干渉することが抑制される。

【0015】

また、本発明に係るスタンドでは、前記縦枠部材の内部には、上下方向に連通し、配線を配置可能な縦配線空間が形成されていてもよい。

【0016】

このように構成されたスタンドでは、縦枠部材の内部に形成された縦配線空間に配線が配置される。よって、スタンドを移動させる際に配線が邪魔になることが抑制されるとともに、配線の露出が抑制され見栄えも良い。

【0017】

また、本発明に係るスタンドでは、前記縦枠部材における左右方向の内側を向く壁部には、前記縦配線空間に連通する配線貫通孔が形成されていてもよい。

【0018】

このように構成されたスタンドでは、縦枠部材における左右方向の内側を向く壁部には、縦配線空間に連通する配線貫通孔が形成されている。よって、配線を縦枠部材の左右方向の内側の配線貫通孔から縦配線空間内に通すことができる。

【0019】

また、本発明に係るスタンドでは、前記支持枠体は、前記一对の縦枠部材の下部どうしを連結する下枠部材を有し、前記下枠部材の内部には、左右方向に連通し、配線を配置可能であるとともに、前記縦配線空間と連通する下配線空間が形成されていてもよい。

【0020】

このように構成されたスタンドでは、下枠部材の内部に形成された下配線空間に、縦配線空間に通された配線が配置される。よって、スタンドを移動させる際に配線が邪魔になることが抑制されるとともに、配線の露出が抑制され見栄えも良い。

【0021】

また、本発明に係るスタンドでは、前記下枠部材は、下方に向かって凹んで上方に開口し、内部に前記下配線空間が形成された第一下側部と、前記第一下側部の上側に着脱可能に設けられ、前記下配線空間を閉塞可能な第一上側部と、を有していてもよい。

【0022】

10

20

30

40

50

このように構成されたスタンドでは、第一上側部を取り外して、第一下側部の内部に形成された下配線空間に配線を通すことができ、配線を容易に通すことができる。

【0023】

また、本発明に係るスタンドでは、前記縦枠部材は、左右方向の外方に向かって凹んで内方に開口し、内部に前記縦配線空間が形成された外側部と、前記外側部の左右方向の内側に着脱可能に設けられ、前記縦配線空間を閉塞可能な内側部と、を有していてもよい。

【0024】

このように構成されたスタンドでは、内側部を取り外して、外側部の内部に形成された縦配線空間に配線を通すことができ、配線を容易に通すことができる。

【0025】

また、本発明に係るスタンドは、前記支持枠体には、把持可能な把手が設けられていてもよい。

【0026】

このように構成されたスタンドでは、支持枠体には把持可能な把手が設けられているため、スタンドの移動をしやすい。

【0027】

また、本発明に係るスタンドでは、前記横部材は、下方に向かって凹んで上方に開口し、内部に配線を配置可能な横配線空間が形成された第二下側部と、前記第二下側部の上側に着脱可能に設けられ、前記横配線空間を閉塞可能な第二上側部と、を有していてもよい。

【0028】

このように構成されたスタンドでは、第二上側部を取り外して、第二下側部の内部に形成された横配線空間に配線を通すことができ、配線を容易に通すことができる。

【0031】

また、本発明に係るスタンドでは、前記横部材は、左右方向に延び、内部が中空に形成された外筒部と、前記外筒部の内部に配置され、左右方向に移動可能とされた挿通部と、前記挿通部が前記外筒部の端部から突出した状態で、前記外筒部と前記挿通部とを連結可能な連結部と、を有し、前記連結部は、頭部と、前記頭部から前記挿通部側に延び、前記頭部の径よりも小さい径で形成された連結本体と、を有し前記外筒部には、左右方向に延び、第一孔及び第二孔を有する外側孔が形成され、前記第一孔は、前記連結本体が配置可能且つ前記頭部が配置不可能な大きさで形成され、前記第二孔は、前記頭部が配置可能な大きさで形成され、前記挿通部が前記外筒部の端部から突出し、前記第二孔に前記頭部が配置された状態で、前記連結本体は前記外筒部と前記挿通部とを連結するとともに、前記挿通部が前記支持枠体に係止されてもよい。

【0032】

このように構成されたスタンドでは、挿通部を外筒部から突出させ、連結部の頭部が外筒部の第二孔に配置するようにして、連結本体で挿通部を外筒部とを連結し、挿通部を支持枠体に係止させて、横部材が支持枠体に取り付けることができる。また、横部材を支持枠体から取り外す際には、外筒部の第一孔に連結部の連結本体を配置して、挿通部と外筒部との連結を外し、挿通部を外筒部の内部に納まるように挿通部を左右方向に移動させればよい。よって、横部材が支持枠体に取り付けられた状態で、連結部によって挿通部と外筒部とが連結されるため、横部材の安定性を高めることができる。また、連結部を緩めれば、横部材を支持枠体から容易に取り外すことができる。

【発明の効果】

【0033】

本発明に係るスタンドによれば、移動させる際に利用者の下肢がベース体に引っかかることが抑制される。

【図面の簡単な説明】

【0034】

【図1】本発明の第一実施形態に係るスタンドの斜視図である。

【図2】本発明の第一実施形態に係るスタンドのベース体の分解斜視図である。

10

20

30

40

50

【図 3】本発明の第一実施形態に係るスタンドのベース体を、図 2 よりさらに分解した分解斜視図である。

【図 4】図 1 の I V - I V 線断面図である。

【図 5】本発明の第一実施形態に係るスタンドの分解斜視図である。

【図 6】図 1 の V I - V I 線断面図である。

【図 7】図 1 の V I I - V I I 線断面図である。

【図 8】図 1 の V I I I - V I I I 線断面図である。

【図 9】図 1 の I X - I X 線断面図である。

【図 10】本発明の第一実施形態に係るスタンドにモニタが取り付けられた状態の断面図である。

10

【図 11】本発明の第一実施形態に係るスタンドの斜視図であり、モニタ及びモニタの配線を示している。

【図 12】本発明の第二実施形態に係るスタンドの斜視図である。

【図 13】本発明の第二実施形態に係るスタンドの横部材の構造を示す斜視図である。

【図 14】本発明の第二実施形態に係るスタンドの横部材と支持枠体との連結構造を示す断面図である。

【図 15】本発明の第二実施形態に係るスタンドの横部材の挿通部が支持枠体に係止されていない状態を示す断面図である。

【図 16】本発明の第三実施形態に係るスタンドの斜視図である。

【発明を実施するための形態】

20

【0035】

(第一実施形態)

以下、本発明の第一実施形態を図面に基づいて説明する。

図 1 は、本発明の第一実施形態に係るスタンドの斜視図である。図 1 に示す本実施形態のスタンド 100 は、オフィスや公共施設の会議室等の室内空間に設置されている。スタンド 100 は、ベース体 1 と、支持枠体 3 と、横連結部材（横部材） 4 と、モニタ支持体（モニタ支持部材） 5 と、を備えている。

【0036】

以下の説明において、スタンド 100 の上下方向を符号 D v とする。支持枠体 3 に向かった状態での左右方向を符号 D h とする。上下方向及び左右方向に直交する方向を前後方向とし、符号 D f とする。左右方向及び前後方向において、スタンド 100 の中央に向かう方向（内側）を中央側と称し、スタンド 100 の中央側と反対側（外側）に向かう方向を端部側と称することがある。

30

【0037】

ベース体 1 は、前後方向視して、支持枠体 3 の左右方向の範囲内に配置されている。換言すると、ベース体 1 の左右方向の長さは支持枠体 3 の左右方向の長さよりも短く、ベース体 1 は支持枠体 3 の左右方向の長さ内に収まっている。

【0038】

図 2 は、ベース体 1 の分解斜視図である。図 2 に示すように、ベース体 1 は、ベース本体 10 と、一対のベースカバー材 20 と、を有している。ベース体 1 は、上下方向を厚さ方向とする平板状に形成されている。

40

【0039】

図 3 は、ベース本体 10 の分解斜視図である。図 3 に示すように、ベース本体 10 は、ベース枠部材（取付部） 11 と、4 本の連結枠 12 と、一対の垂部材 14 と、を有している。

【0040】

ベース枠部材 11 は、略四方枠状に形成されている。ベース枠部材 11 は、一対のベース縦杆 111 と、一対のベース横杆 116 と、を有している。ベース縦杆 111 及びベース横杆 116 とは、角管状に形成されている。

【0041】

50

ベース縦杆 1 1 1 は、前後方向に延びている。一对のベース縦杆 1 1 1 は左右方向に離間して配置されている。ベース横杆 1 1 6 は、左右方向に延びている。一对のベース横杆 1 1 6 は、前後方向に離間して配置されている。ベース横杆 1 1 6 は、一对のベース縦杆 1 1 1 の前後方向の端部どうしを連結している。ベース横杆 1 1 6 は、ベース縦杆 1 1 1 の内側面（左右方向の中央側を向く面）に溶接等により接合されている。

【 0 0 4 2 】

4 本の連結棒 1 2 は、前後方向に離間して配置されている。最も前側及び最も後側に配置された連結棒 1 2 は、ベース横杆 1 1 6 の上側に配置されている。前後方向の中央側に配置された 2 本の連結棒 1 2 は、後述する連結プレート 1 6 を挟むように前後方向に対向配置されている。連結棒 1 2 は、左右方向に延びている。連結棒 1 2 は、平板棒状であるとともに直方体状に形成されている。連結棒 1 2 の左右方向の両端部には、上下方向に貫通する螺子孔 1 2 a が形成されている。

【 0 0 4 3 】

ベース横杆 1 1 6 の上面を形成する横杆上面板部 1 1 6 a には、上下方向に貫通する取付孔 1 1 6 b が形成されている。ベース横杆 1 1 6 の下面を形成する横杆下面板部（不図示）には、上下方向に貫通する取付孔（不図示）が形成されている。螺子 1 1 6 c が、ベース横杆 1 1 6 の横杆下面板部の取付孔を通り抜けて、横杆上面板部 1 1 6 a の取付孔 1 1 6 b に挿通され、最も前側及び最も後側に配置された連結棒 1 2 の螺子孔 1 2 a に螺合されている。これによって、最も前側及び最も後側に配置された連結棒 1 2 の長さ方向の両端部は、ベース横杆 1 1 6 に固定されている。

【 0 0 4 4 】

図 4 は、図 1 の I V - I V 線断面図である。図 4 に示すように、ベース縦杆 1 1 1 の上面を形成する縦杆上面板部 1 1 1 a には、上下方向に貫通する取付孔 1 1 1 b が形成されている。ベース縦杆 1 1 1 の下面を形成する縦杆下面板部 1 1 1 c には、上下方向に貫通する取付孔 1 1 1 d が形成されている。螺子 1 1 1 e が、ベース縦杆 1 1 1 の縦杆下面板部 1 1 1 c の取付孔 1 1 1 d を通り抜けて、縦杆上面板部 1 1 1 a の取付孔 1 1 1 b に挿通され、前後方向の中央側に配置された連結棒 1 2 の螺子孔 1 2 a に螺合されている。これによって、前後方向の中央側に配置された 2 本の連結棒 1 2 の長さ方向の両端部は、ベース縦杆 1 1 1 に固定されている。

【 0 0 4 5 】

錘部材 1 4 は、左右方向に延びている。錘部材 1 4 は、平板棒状であるとともに直方体状に形成されている。錘部材 1 4 は、所定の質量を有する金属材料等で構成されている。錘部材 1 4 は、前側の 2 本の連結棒 1 2 の間（最も前側の連結棒 1 2 の後方且つ中央側の連結棒 1 2 の前方）、及び後側の 2 本の連結棒 1 2 の間（最も後側の連結棒 1 2 の前方且つ中央側の連結棒 1 2 の後方）に配置されている。なお、連結棒 1 2 の数、錘部材 1 4 の数、連結棒 1 2 と錘部材 1 4 との位置関係は適宜設定可能である。

【 0 0 4 6 】

錘部材 1 4 の左右方向の両端部には、上下方向に貫通する螺子孔 1 4 a が形成されている。ベース縦杆 1 1 1 の縦杆上面板部 1 1 1 a には、上下方向に貫通する取付孔 1 1 1 g が形成されている。ベース縦杆 1 1 1 の縦杆下面板部 1 1 1 c には、上下方向に貫通する取付孔 1 1 1 h が形成されている。螺子 1 4 b が、ベース縦杆 1 1 1 の縦杆下面板部 1 1 1 c の取付孔 1 1 1 h を通り抜けて、縦杆上面板部 1 1 1 a の取付孔 1 1 1 g に挿通され、錘部材 1 4 の螺子孔 1 4 a に螺合されている。これによって、錘部材 1 4 の長さ方向の両端部は、ベース縦杆 1 1 1 に固定されている。

【 0 0 4 7 】

図 2 に示すように、ベース枠部材 1 1 のベース縦杆 1 1 1 の前後方向の略中央には、連結プレート 1 6 が設けられている。連結プレート 1 6 は、ベース縦杆 1 1 1 を後述する支持枠体 3 に連結するためのものである。連結プレート 1 6 は、上部プレート部 1 6 1 と、接続プレート部 1 6 2 と、下部プレート部 1 6 3 と、を有している。

【 0 0 4 8 】

10

20

30

40

50

図 4 に示すように、上部プレート部 1 6 1 は、ベース縦杆 1 1 1 の上方に配置されている。図 2 に示すように、接続プレート部 1 6 2 は、上部プレート部 1 6 1 の左右方向の端部から下方に向かって延びている。下部プレート部 1 6 3 は、接続プレート部 1 6 2 の下端部から左右方向の端部側に向かって延びている。下部プレート部 1 6 3 は、接続プレート部 1 6 2 の前後方向の両端部に設けられている。

【0049】

ベース縦杆 1 1 1 の縦杆下面板部 1 1 1 c (図 4 参照) の前後方向の両端部には、床面上を走行可能なキャスタ 1 7 が設けられている。キャスタ 1 7 によって、スタンド 1 0 0 は床面上を前後方向及び左右方向に移動可能とされている。

【0050】

ベースカバー材 2 0 は、ベース枠部材 1 1 の前後両側に取り付けられている。ベースカバー材 2 0 は、上部カバー板部 2 1 と、周縁カバー板部 2 2 と、取付板部 2 3 と、を有している。上部カバー板部 2 1 は、平板状に形成されている。上部カバー板部 2 1 の板厚方向は、上下方向を向いている。前側の上部カバー板部 2 1 は、ベース本体 1 0 の前部を上方から覆っている。後側の上部カバー板部 2 1 は、ベース本体 1 0 の後部を上方から覆っている。

【0051】

図 4 に示すように、上部カバー板部 2 1 の下面には、連結枠 1 2 の上面及び踵部材 1 4 の上面が当接している。これによって、上部カバー板部 2 1 の上面に下向きの力が作用しても、上部カバー板部 2 1 の下方への凹みが抑制される。

【0052】

図 2 に示すように、前側のベースカバー材 2 0 では、上部カバー板部 2 1 の前端部及び左右両端部に周縁カバー板部 2 2 が設けられ、上部カバー板部 2 1 の後端部には取付板部 2 3 (図 8 参照) が設けられている。周縁カバー板部 2 2 及び取付板部 2 3 は、上部カバー板部 2 1 の周縁部から下方に延びている。

【0053】

後側のベースカバー材 2 0 では、上部カバー板部 2 1 の後端部及び左右両端部に周縁カバー板部 2 2 が設けられ、上部カバー板部 2 1 の前端部には取付板部 2 3 が設けられている。周縁カバー板部 2 2 及び取付板部 2 3 は、上部カバー板部 2 1 の周縁部から下方に延びている。

【0054】

図 1 に示すように、支持枠体 3 は、ベース体 1 に支持されている。支持枠体 3 は、四方枠状に形成されている。支持枠体 3 は、一対の縦枠部材 3 0 と、上枠部材 3 3 と、下枠部材 3 5 と、を有している。

【0055】

図 5 は、スタンド 1 0 0 の分解斜視図である。図 5 に示すように、一対の縦枠部材 3 0 は、左右方向に離間して配置されている。縦枠部材 3 0 は、縦外側枠 (外側部) 3 1 と、縦カバー (内側部) 3 2 A, 3 2 B, 3 2 C と、を有している。

【0056】

縦外側枠 3 1 は、上下方向に延びている。縦外側枠 3 1 の長さは、支持枠体 3 の上下方向の長さと同様である。

【0057】

縦外側枠 3 1 の外側面 (左右方向の端部側を向く面) 3 1 c には、把持可能な把手 3 8 が設けられている。把手 3 8 は、帯状部材で環状に形成されている。把手 3 8 の材質は、可撓性があるものが好ましい。これによって、複数のスタンド 1 0 0 を左右方向に隣接配置する場合に、把手 3 8 を変形させてスタンド 1 0 0 どうしのすき間を小さくすることができる。

【0058】

図 6 は、図 1 の V I - V I 線断面図である。図 6 に示すように、縦外側枠 3 1 の内側面 (左右方向の中央側を向く面) 3 1 a には、左右方向の端部側に向かって凹んで中央側に

10

20

30

40

50

開口する縦配線凹部 3 1 b が形成されている。縦配線凹部 3 1 b の内部は、配線 c 1 , c 2 (図 1 1 参照) を配置可能な縦配線空間 s 1 とされている。縦配線空間 s 1 は、縦外側枠 3 1 の長さ方向にわたって形成されている。

【 0 0 5 9 】

縦配線凹部 3 1 b は、一対の側壁部 3 1 1 と底壁部 3 1 2 によって形成されている。側壁部 3 1 1 は、縦外側枠 3 1 の内側面 3 1 a から左右方向の端部側に延びている。一対の側壁部 3 1 1 は、前後方向に離間して配置されている。底壁部 3 1 2 は、一対の 3 1 1 の左右方向の端部どうしを接続している。

【 0 0 6 0 】

図 5 に示すように、縦カバー 3 2 A , 3 2 B , 3 2 C は、上下方向に離間して配置されている。縦カバー 3 2 A は、上枠部材 3 3 と後述する下側のモニタ支持横材 5 1 との間に配置されている。縦カバー 3 2 B は、下側のモニタ支持横材 5 1 と横連結部材 4 との間に配置されている。縦カバー 3 2 C は、横連結部材 4 と下枠部材 3 5 との間に配置されている。

10

【 0 0 6 1 】

縦カバー 3 2 A , 3 2 B , 3 2 C は、縦外側枠 3 1 の縦配線空間 s 1 を左右方向の中央側から閉塞するように設けられている。縦カバー 3 2 A , 3 2 B , 3 2 C を総称して、縦カバー 3 2 とすることがある。

【 0 0 6 2 】

図 6 に示すように、縦カバー 3 2 は、カバー閉塞板部 3 2 1 と、一対のカバー側板部 3 2 2 と、一対のカバー折返板部 3 2 3 と、を有している。カバー閉塞板部 3 2 1 は、板状に形成されている。カバー閉塞板部 3 2 1 の板厚方向は、左右方向を向いている。カバー閉塞板部 3 2 1 は、縦配線空間 s 1 に対して左右方向の中央側に配置されている。カバー閉塞板部 3 2 1 は、縦外側枠 3 1 の内側面 3 1 a と前後方向及び上下方向に沿う略同一平面上に配置されている。

20

【 0 0 6 3 】

カバー側板部 3 2 2 は、カバー閉塞板部 3 2 1 の前後方向の両端部から左右方向の端部側に向けて延びている。カバー側板部 3 2 2 は、縦外側枠 3 1 の側壁部 3 1 1 に沿って配置されている。カバー折返板部 3 2 3 は、カバー側板部 3 2 2 の左右方向の端部から前後方向の中央側に向けて延びている。カバー折返板部 3 2 3 は、縦外側枠 3 1 の底壁部 3 1 2 に沿って配置されている。縦カバー 3 2 は、縦外側枠 3 1 の縦配線凹部 3 1 b よりもわずかに小さく形成されている。縦カバー 3 2 は、縦配線凹部 3 1 b に着脱可能に設けられている。縦外側枠 3 1 は金属材料 (磁性材料) からなり、縦カバー 3 2 に設けられたマグネット (不図示) が磁着されている。

30

【 0 0 6 4 】

図 1 に示すように、縦カバー 3 2 A のカバー閉塞板部 3 2 1 と縦カバー 3 2 B のカバー閉塞板部 3 2 1 との間には、隙間が形成されている。この隙間は、縦外側枠 3 1 の内部の縦配線空間 s 1 に連通する配線開口 (配線貫通孔) 3 2 4 とされている。縦カバー 3 2 A のカバー閉塞板部 3 2 1 の上側には、縦外側枠 3 1 の内部の縦配線空間 s 1 に連通する配線開口 (配線貫通孔) 3 2 5 が形成されている。

40

【 0 0 6 5 】

上枠部材 3 3 は、左右方向に延びている。上枠部材 3 3 は、一対の縦外側枠 3 1 の上端部どうしを連結している。上枠部材 3 3 の左右方向の端部は、縦外側枠 3 1 の上端部にボルト及びナット等の連結具 (不図示) で連結されている。上枠部材 3 3 には、下方に向かって凹んで上方に開口する上配線凹部 3 3 a が形成されている。上配線凹部 3 3 a の内部は、配線 c 1 (図 1 1 参照) を配置可能な上配線空間 s 2 とされている。上配線空間 s 2 は、上枠部材 3 3 の長さ方向にわたって形成されている。上配線空間 s 2 は、配線開口 3 2 5 に連通している。

【 0 0 6 6 】

下枠部材 3 5 は、左右方向に延びている。下枠部材 3 5 は、一対の縦外側枠 3 1 の下端

50

部どうしを連結している。下枠部材 35 の左右方向の端部は、縦外側枠 31 の下端部にボルト及びナット等の連結具（不図示）で連結されている。

【0067】

下枠部材 35 は、下箱状部（第一下側部）36 と、下カバー（第一上側部）37A, 37B, 37C と、を有している。

【0068】

図 5 に示すように、下箱状部 36 は、左右方向に延びている。下箱状部 36 の長さは、支持枠体 3 の左右方向の長さと同様である。下箱状部 36 は、下方に向かって凹んで上方に開口する形状をしている。

【0069】

下箱状部 36 は、前後方向に離間して配置された一対の前後面板部 361 を有している。前後面板部 361 は、左右方向に延びている。前後面板部 361 の長さは、支持枠体 3 の縦外側枠 31 の内内間の長さと同様である。前後面板部 361 は、板状に形成されている。前後面板部 361 の板厚方向は、前後方向を向いている。

【0070】

前後一対の前後面板部 361 の間には、配線を配置可能な下配線空間 s3 とされている。下配線空間 s3 は、下枠部材 35 の長さ方向にわたって形成されている。下配線空間 s3 は、下枠部材 35 の左右方向の端部で、縦配線空間 s1 に連通している。

【0071】

図 4 に示すように、前後面板部 361 の上端部には、前後方向の中央側に延びる第一延出壁部 362 が設けられている。第一延出壁部 362 の延出端部には、下方に延びる第一下向き壁部 363 が設けられている。第一下向き壁部 363 の下端部には、前後方向の中央側に延びる第二延出壁部 364 が設けられている。第二延出壁部 364 の前後方向の中央側の端部には、下方に延びる第二下向き壁部 365 が設けられている。

【0072】

図 7 は、図 1 の V I I - V I I 線断面図である。図 7 に示すように、前後面板部 361 の左右方向の両端部の下端部には、前後方向の中央側に延びる第一取付壁部 381 が設けられている。第一取付壁部 381 は、連結プレート 16 の下部プレート部 163 の下側に配置されている。第一取付壁部 381 は、下部プレート部 163 とボルト 381a の締結によって固定されている。

【0073】

図 4 に示すように、前後面板部 361 の左右方向の中間の下端部には、前後方向の中央側に延びる第二取付壁部 392 が設けられている。第二取付壁部 392 は、第一取付壁部 381（図 7 参照）よりも高い位置に配置されている。第二取付壁部 392 は、連結プレート 16 の上部プレート部 161 の下側且つベース縦杆 111 の縦杆上面板部 111a の上側に配置されている。第二取付壁部 392 は、下部プレート部 163 及び縦杆上面板部 111a とボルト 161a の締結によって固定されている。

【0074】

図 8 は、図 1 の V I I I - V I I I 線断面図である。図 8 に示すように、前後面板部 361 は、ベースカバー材 20 の取付板部 23 の前後方向の中央側に配置されている。前後面板部 361 とベースカバー材 20 の取付板部 23 とは、螺子 361a によって固定されている。

【0075】

図 5 に示すように、下カバー 37A, 37B, 37C は、左右方向に隣接して配置されている。下カバー 37A, 37B, 37C は、下箱状部 36 の下配線空間 s3 を上方から閉塞するように設けられている。下カバー 37A, 37B, 37C を総称して、下カバー 37 とすることがある。なお、下カバー 37 の個数は適宜設定可能であり、隣接する下カバー 37 どうしが隙間を有して配置されていてもよい。

【0076】

図 4 に示すように、下カバー 37 は、カバー閉塞板部 371 と、一対のカバー側板部 3

10

20

30

40

50

72と、一対のカバー折返板部373と、を有している。カバー閉塞板部371は、板状に形成されている。カバー閉塞板部371の板厚方向は、上下方向を向いている。カバー閉塞板部371は、下配線空間s3に対して上側に配置されている。カバー閉塞板部371は、下箱状部36の第一延出壁部362と前後方向及び左右方向に沿う略同一平面上に配置されている。

【0077】

カバー側板部372は、カバー閉塞板部371の前後方向の両端部から下方に向けて延びている。カバー側板部372は、下箱状部36の第一下向き壁部363に沿って配置されている。カバー折返板部373は、カバー側板部372の下端部から前後方向の中央側に向けて延びている。カバー折返板部373は、下箱状部36の第二延出壁部364の上側に配置されている。下カバー37の前後方向の幅は、下箱状部36の第一下向き壁部363間の距離よりもわずかに小さく形成されている。下カバー37は、下箱状部36に着脱可能に設けられている。下箱状部36は金属材料（磁性材料）からなり、下カバー37に設けられたマグネット（不図示）が磁着されている。

【0078】

図1に示すように、横連結部材4は、左右方向に延びる長尺状をしている。横連結部材4は、一対の縦外側枠31の上下方向の中間どうしを連結している。横連結部材4の左右方向の端部は、縦外側枠31の上下方向の中間にボルト及びナット等の連結具（不図示）で連結されている。

【0079】

図5に示すように、横連結部材4は、横箱状部（第二下側部）41と、横カバー（第二上側部）43A、43B、43Cと、を有している。

【0080】

横箱状部41は、左右方向に延びている。横箱状部41の長さは、支持枠体3の縦外側枠31の内内間の長さと同様である。横箱状部41は、下方に向かって凹んで上方に開口する形状をしている。

【0081】

図9は、図1のIX-IX線断面図である。図9に示すように、横箱状部41は、下面板部411と、一対の前後面板部412と、を有している。下面板部411は、左右方向に延びている。下面板部411の長さは、支持枠体3の縦外側枠31の内内間の長さと同様である。下面板部411は、板状に形成されている。下面板部411の板厚方向は、上下方向を向いている。

【0082】

前後面板部412は、下面板部411の前後方向の両端部から立設している。前後面板部412は、板状に形成されている。前後面板部412の板厚方向は、前後方向を向いている。

【0083】

図5に示すように、横箱状部41の内部には、配線を配置可能な横配線空間s4が形成されている。横配線空間s4は、横連結部材4の長さ方向にわたって形成されている。横配線空間s4は、横連結部材4の左右方向の端部で、縦配線空間s1に連通している。

【0084】

図9に示すように、前後面板部412の上端部には、前後方向の中央側に延びる第一延出壁部423が設けられている。第一延出壁部423の延出端部には、下方に延びる第一下向き壁部424が設けられている。第一下向き壁部424の下端部には、前後方向の中央側に延びる第二延出壁部425が設けられている。第二延出壁部425の前後方向の中央側の端部には、下方に延びる第二下向き壁部426が設けられている。

【0085】

図5に示すように、横カバー43A、43B、43Cは、左右方向に隣接して配置されている。横カバー43A、43B、43Cは、横箱状部41の横配線空間s4を上方から閉塞するように設けられている。横カバー43A、43B、43Cを総称して、横カバー

10

20

30

40

50

４３とすることがある。なお、横カバー４３の個数は適宜設定可能であり、隣接する下カバー３７どうしが隙間を有して配置されていてもよい。

【００８６】

図９に示すように、横カバー４３は、カバー閉塞板部４３１と、一对のカバー側板部４３２と、一对のカバー折返板部４３３と、を有している。カバー閉塞板部４３１は、板状に形成されている。カバー閉塞板部４３１の板厚方向は、上下方向を向いている。カバー閉塞板部４３１は、横配線空間４４に対して上側に配置されている。カバー閉塞板部４３１は、横箱状部４１の第一延出壁部４２３と前後方向及び左右方向に沿う略同一平面上に配置されている。

【００８７】

カバー側板部４３２は、カバー閉塞板部４３１の前後方向の両端部から下方に向けて延びている。カバー側板部４３２は、横箱状部４１の第一下向き壁部４２４に沿って配置されている。カバー折返板部４３３は、カバー側板部４３２の下端部から前後方向の中央側に向けて延びている。カバー折返板部４３３は、横箱状部４１の第二延出壁部４２５の上側に配置されている。横カバー４３の前後方向の幅は、横箱状部４１の第一下向き壁部４２４間の距離よりもわずかに小さく形成されている。横カバー４３は、横箱状部４１に着脱可能に設けられている。横箱状部４１は金属材料（磁性材料）からなり、横カバー４３に設けられたマグネット（不図示）が磁着されている。

【００８８】

図１に示すように、モニタ支持体５は、一对のモニタ支持横材５１と、一对のモニタ支持縦材５２と、を有している。モニタ支持横材５１は、左右方向に延びている。モニタ支持体５は、横連結部材４の上方且つ上枠部材３３の下方に配置されている。

【００８９】

一对のモニタ支持横材５１は、上下方向に離間して配置されている。モニタ支持横材５１は、左右方向に延びる長尺状をしている。モニタ支持横材５１の左右方向の端部は、縦外側枠３１の上下方向の中間にボルト及びナット等の連結具（不図示）で連結されている。

【００９０】

一对のモニタ支持縦材５２は、左右方向に離間して配置されている。モニタ支持縦材５２は、上下のモニタ支持横材５１の間に配置されている。モニタ支持縦材５２は、上下方向に延びている。モニタ支持縦材５２は長尺状をしている。モニタ支持縦材５２の上下方向の端部は、モニタ支持横材５１の左右方向の中間にボルト及びナット等の連結具（不図示）で連結されている。

【００９１】

モニタ支持縦材５２には、モニタ取付具（不図示）を介してモニタＭ（図１０参照）が取り付け可能とされている。モニタ支持縦材５２とモニタ支持横材５１とは、連結されている。このように、モニタ支持横材５１は、モニタＭを支持する機能を有している。

【００９２】

図１０は、スタンド１００にモニタＭが取り付けられた状態における上下方向及び前後方向に沿う断面図である。図１０に示すように、モニタ支持体５は、支持枠体３の前後方向の中央（一点鎖線Ａ参照）よりも後側に配置されている。モニタＭは、モニタ取付具（不図示）によってモニタ支持縦材５２に取り付けられている。モニタＭが取り付けられた状態で、モニタＭは、支持枠体３の前後方向の奥行内に収まり、支持枠体３よりも前方に突出していない。

【００９３】

支持枠体３の上枠部材３３の前端部に係止フック３９を係止させて、係止フック３９にホワイトボード等のパネルＰを係止することができる。モニタＭが支持枠体３よりも前方に突出していないため、パネルＰがモニタＭの前方に間隔を有して配置され、パネルＰがモニタＭと干渉していない。

【００９４】

図１１は、スタンド１００の斜視図であり、モニタＭ及びモニタＭの配線ｃ１、ｃ２を

10

20

30

40

50

示している。図 1 1 に示すように、モニタ M の配線 c 1 , c 2 は、支持枠体 3 の縦外側枠 3 1 の内部、上枠部材 3 3 の内部、下枠部材 3 5 の内部及び横箱状部 4 1 の内部に配置される。

【0095】

このように構成されたスタンド 1 0 0 では、支持枠体 3 を支持するベース体 1 は、上下方向を厚さ方向とする平板状に形成されている。上方からベース体 1 を見ると面積が広く、ベース体 1 は視認性が高い。よって、スタンド 1 0 0 をキャスタ 1 7 によって移動させる際に、利用者はベース体 1 を視認できるため、利用者の下肢がベース体 1 に引っかかることが抑制される。

【0096】

また、支持枠体 3 にモニタ M 等の重量物を取り付ける場合に、ベース体 1 のベース枠部材 1 1 に錘部材 1 4 を取り付けて重心を下方にすることで、スタンド 1 0 0 の安定性を高めることができる。また、支持枠体 3 に重量物を取り付けない場合には、ベース体 1 のベース枠部材 1 1 に錘部材 1 4 を取り付けないようにすれば、スタンド 1 0 0 が軽くなり、スタンド 1 0 0 を軽い力で移動させることができる。

【0097】

また、ベース本体 1 0 及び錘部材 1 4 はベースカバー材 2 0 で覆われているため、ベース本体 1 0 及び錘部材 1 4 の露出が抑制され、外観を向上させることができる。

【0098】

また、ベース体 1 は、前後方向視して、支持枠体 3 の左右方向の範囲内に配置されている。よって、複数のスタンド 1 0 0 を直線状ではなく傾斜させて（上方から見て V 字状となるように）隣接配置した場合に、隣り合うスタンド 1 0 0 のベース体 1 同士が干渉することがない。また、支持枠体 3 の左右方向の端部を持ってスタンド 1 0 0 を移動させる際に、利用者の下肢とベース体 1 とが干渉することが抑制される。

【0099】

また、縦枠部材 3 0 の内部に形成された縦配線空間 s 1 に配線が配置される。よって、スタンド 1 0 0 を移動させる際に配線が邪魔になることが抑制されるとともに、配線の露出が抑制され見栄えも良い。

【0100】

また、縦枠部材 3 0 における左右方向の内側を向く面には、縦配線空間 s 1 に連通する配線開口 3 2 4 が形成されている。よって、配線を縦枠部材 3 0 の左右方向の内側の配線開口 3 2 4 から縦配線空間 s 1 内に通すことができる。

【0101】

また、下枠部材 3 5 の内部に形成された下配線空間 s 3 に、縦配線空間 s 1 に通された配線が配置される。よって、スタンド 1 0 0 を移動させる際に配線が邪魔になることが抑制されるとともに、配線の露出が抑制され見栄えも良い。

【0102】

また、下カバー 3 7 を取り外して、下箱状部 3 6 の内部に形成された下配線空間 s 3 に配線を通すことができ、配線を容易に通すことができる。

【0103】

また、縦カバー 3 2 を取り外して、縦外側枠 3 1 の内部に形成された縦配線空間 s 1 に配線を通すことができ、配線を容易に通すことができる。

【0104】

また、支持枠体 3 には把持可能な把手 3 8 が設けられているため、スタンド 1 0 0 の移動をしやすい。

【0105】

また、横カバー 4 3 を取り外して、横箱状部 4 1 の内部に形成された横配線空間 s 4 に配線を通すことができ、配線を容易に通すことができる。

【0106】

また、モニタ M を支持するモニタ支持体 5 は、支持枠体 3 の前後方向の中央よりも後側

10

20

30

40

50

に配置されている。よって、モニタ支持体 5 にモニタ M を支持させた状態で、モニタ M が支持枠体 3 よりも前方に突出することが抑制される。スタンド 100 を移動させる際に、モニタ M が他の物品等と衝突することが抑制される。

【0107】

(第二実施形態)

次に、本発明の第二実施形態を、主に図 12～図 15 に基づいて説明する。

以下の第二実施形態の構成のうち、第一実施形態と同様の構成については、同一の符号を付してその説明を省略する。

図 12 は、本発明の第二実施形態に係るスタンドの斜視図である。図 12 に示すように、スタンド 100 X は、ベース体 1 と、支持枠体 3 X と、ハンガーパイプ（横部材） 6 と、を備えている。

10

【0108】

支持枠体 3 X は、一対の縦枠部材 30 X と、上枠部材 33 と、下枠部材 35 と、を有している。縦枠部材 30 X は、縦外側枠 31 と、縦内側部材 34 と、を有している。

【0109】

縦外側枠 31 は、上下方向に延びている。縦外側枠 31 の長さは、支持枠体 3 の上下方向の長さと同様である。縦内側部材 34 は、縦外側枠 31 に対して左右方向の中央側に配置されている。縦内側部材 34 と縦外側枠 31 とは、ボルト及びナット等の連結具（不図示）で連結されている。縦内側部材 34 には、左右方向に貫通する挿通孔 34c（図 13 参照）が形成されている。

20

【0110】

ハンガーパイプ 6 は、左右方向に延びる長尺状をしている。ハンガーパイプ 6 は、一対の縦内側部材 34 の上部どうしを連結している。

【0111】

図 13 は、ハンガーパイプ 6 の構造を示す斜視図である。図 13 では、後述する螺子 63 の図示を省略している。図 13 に示すように、縦内側部材 34 に外側面（左右方向の端部側を向く面） 34a（図 14 参照）には、係止部材 340 が取り付けられている。

【0112】

係止部材 340 は、一対の取付片部 341 と、一対の延出片部 342 と、係止片部 343 と、を有している。一対の取付片部 341 は、上下方向に離間して配置されている。取付片部 341 は、縦内側部材 34 の外側面 34a に沿って配置されている。縦内側部材 34 の外側面 34a 側から螺子 34b によって、縦内側部材 34 と取付片部 341 とは連結されている。一方の延出片部 342 は、上側の取付片部 341 の下端部から左右方向の端部側に延びている。他方の延出片部 342 は、下側の取付片部 341 の上端部から左右方向の端部側に延びている。係止片部 343 は、上側の延出片部 342 の端部と下側の延出片部 342 の端部とを連結している。係止片部 343 は、板状に形成されている。係止片部 343 の板厚方向は、左右方向を向いている。

30

【0113】

図 14 は、スタンド 100 のハンガーパイプ 6 と支持枠体 3 X との連結構造を示す断面図である。図 14 に示すように、係止片部 343 には、左右方向に貫通する係止孔 343a が形成されている。

40

【0114】

ハンガーパイプ 6 は、外筒部材（外筒部） 61 と、一対の内筒部材（挿通部） 62 と、螺子（連結部） 63 と、を有している。ハンガーパイプ 6 には、ハンガー（不図示）を引っかけることができる。

【0115】

外筒部材 61 は、左右方向に延びている。外筒部材 61 の長さは、左右の縦内側部材 34 間の距離と同様か、左右の縦内側部材 34 間の距離よりもわずかに短い。

【0116】

外筒部材 61 は、左右方向を軸線方向とする円筒状をしていて、内部が中空に形成され

50

ている。外筒部材 6 1 の左右方向の両端部近傍の下部には、スライド孔（外側孔） 6 1 0 が形成されている。

【 0 1 1 7 】

スライド孔 6 1 0 は、長孔部（第一孔） 6 1 1 及びビス孔部（第二孔） 6 1 2 によって形成されている。長孔部 6 1 1 は、左右方向に長い長孔形状をしている。長孔部 6 1 1 の幅（外筒部材 6 1 の周方向の長さ）は、後述する螺子 6 3 の螺子軸部 6 3 2 に対応した大きさであり、且つ螺子 6 3 の頭部 6 3 1 の直径よりも小さい。換言すると、長孔部 6 1 1 には、螺子 6 3 の螺子軸部 6 3 2 が配置かのうであり、且つ螺子 6 3 の頭部 6 3 1 が配置不可能とされている。ビス孔部 6 1 2 は、長孔部 6 1 1 の幅（外筒部材 6 1 の周方向の長さ）よりも広く形成されている。ビス孔部 6 1 2 には、外筒部材 6 1 の内周面に向かうにしたがって次第に縮径するテーパ 6 1 3 が形成されている。ビス孔部 6 1 2 は、後述する螺子 6 3 の頭部 6 3 1 と対応した形状をしている。長孔部 6 1 1 の幅（外筒部材 6 1 の周方向の長さ）は、螺子 6 3 の頭部 6 3 1 の径よりも小さい。

【 0 1 1 8 】

内筒部材 6 2 は、左右方向を軸線方向とする角筒状をしていて、内部が中空に形成されている。内筒部材 6 2 は、外筒部材 6 1 の左右方向の両端部に配置されている。

【 0 1 1 9 】

図 1 3 に示すように、内筒部材 6 2 の角は、外筒部材 6 1 の内周面に当接しているか、外筒部材 6 1 の内周面にわずかに隙間を有して配置されている。これによって、内筒部材 6 2 は、外筒部材 6 1 の内部で周方向に回転せずに、左右方向に移動可能とされている。内筒部材 6 2 の下部には、螺子孔 6 2 1 が形成されている。

【 0 1 2 0 】

図 1 4 に示すように、内筒部材 6 2 が外筒部材 6 1 の左右方向の端部 6 1 4 から突出した状態で、螺子 6 3 によって、外筒部材 6 1 と内筒部材 6 2 とが連結されている。螺子 6 3 の頭部 6 3 1 は、外筒部材 6 1 のビス孔部 6 1 2 に配置されている。螺子 6 3 の螺子軸部（連結本体） 6 3 2 は、頭部 6 3 1 から内筒部材 6 2 側に延びている。螺子軸部 6 3 2 の直径は、頭部 6 3 1 の直径よりも小さい。螺子軸部 6 3 2 は、内筒部材 6 2 の螺子孔 6 2 1 に螺合されている。内筒部材 6 2 における外筒部材 6 1 から突出した部分 6 2 2 は、縦内側部材 3 4 の挿通孔 3 4 c に挿通され、係止部材 3 4 0 の係止孔 3 4 3 a に係止されている。この状態で、螺子 6 3 が少し緩んだとしても、螺子 6 3 が内筒部材 6 2 の螺子孔 6 2 1 に入りこんでいるため、内筒部材 6 2 が左右方向に移動することはなく、ハンガーパイプ 6 が縦枠部材 3 0 から外れることはない。

【 0 1 2 1 】

図 1 5 は、内筒部材 6 2 が外筒部材 6 1 内に没入した状態を示す断面図である。上記のハンガーパイプ 6 を縦枠部材 3 0 に取り付ける際には、図 1 5 に示すように、螺子 6 3 を緩めて、螺子軸部 6 3 2 が内筒部材 6 2 の螺子孔 6 2 1 に緩く螺合した状態にしておく。螺子 6 3 の頭部 6 3 1 がスライド孔 6 1 0 よりも下方に突出しているため、内筒部材 6 2 が外筒部材 6 1 の内部を左右方向に移動可能となっていて、内筒部材 6 2 を外筒部材 6 1 の内部に没入しておく。この状態で、ハンガーパイプ 6 を所定の位置に配置して、螺子 6 3 の頭部 6 3 1 を持って、内筒部材 6 2 を外筒部材 6 1 から突出させるように、内筒部材 6 2 を左右方向に移動させる。図 1 4 に示すように、螺子 6 3 の頭部 6 3 1 が外筒部材 6 1 のビス孔部 6 1 2 に到達したところで、螺子 6 3 を螺合して、外筒部材 6 1 と内筒部材 6 2 とを連結する。

【 0 1 2 2 】

このように構成されたスタンド 1 0 0 X では、支持枠体 3 X を支持するベース体 1 は、上下方向を厚さ方向とする平板状に形成されている。上方からベース体 1 を見ると面積が広く、ベース体 1 は視認性が高い。よって、スタンド 1 0 0 X をキャスタ 1 7 によって移動させる際に、利用者はベース体 1 を視認できるため、利用者の下肢がベース体 1 に引っかかることが抑制される。

【 0 1 2 3 】

また、内筒部材 6 2 を外筒部材 6 1 から突出させ、螺子 6 3 の頭部 6 3 1 が外筒部材 6 1 のスライド孔 6 1 0 に配置するようにして、螺子 6 3 の螺子軸部 6 3 2 で内筒部材 6 2 を外筒部材 6 1 とを連結し、内筒部材 6 2 を縦枠部材 3 0 X に係止させて、ハンガーパイプ 6 が縦枠部材 3 0 X に取り付けることができる。また、ハンガーパイプ 6 を縦枠部材 3 0 X から取り外す際には、外筒部材 6 1 の長孔部 6 1 1 に螺子 6 3 の螺子軸部 6 3 2 を配置して、内筒部材 6 2 と外筒部材 6 1 との連結を外し、内筒部材 6 2 を外筒部材 6 1 の内部に納まるように内筒部材 6 2 を左右方向に移動させればよい。よって、ハンガーパイプ 6 が縦枠部材 3 0 X に取り付けられた状態で、螺子 6 3 によって内筒部材 6 2 と外筒部材 6 1 とが連結されるため、ハンガーパイプ 6 の安定性を高めることができる。また、螺子 6 3 を緩めれば、ハンガーパイプ 6 を縦枠部材 3 0 X から容易に取り外すことができる。

10

【0124】

(第三実施形態)

本発明の第三実施形態を、主に図 1 6 に基づいて説明する。

図 1 6 は、本発明の第三実施形態に係るスタンドの斜視図である。図 1 6 に示すように、スタンド 1 0 0 Y は、ベース体 1 と、支持枠体 3 X と、2 本の横連結部材 (横部材) 4 Y と、を備えている。

【0125】

横連結部材 4 Y は、左右方向に延びる長尺状をしている。横連結部材 4 は Y、一対の縦外側枠 3 1 の上下方向の中間どうしを連結している。2 本の横連結部材 4 は、上下方向に離間して配置されている。横連結部材 4 Y の左右方向の端部は、縦内側部材 3 4 にボルト及びナット等の連結具 (不図示) で連結されている。

20

【0126】

横連結部材 4 Y は、横下側部材 4 4 と横上側部材 4 5 とが着脱可能に嵌合されて構成されている。横下側部材 4 4 と横上側部材 4 5 との間には、左右方向に延びる隙間 4 6 が形成されている。隙間 4 6 は、横連結部材 4 Y の前後両側に形成されている。隙間 4 6 にフック等を係止することができる。横上側部材 4 5 の上に物品を載置することができる。

【0127】

このように構成されたスタンド 1 0 0 Y では、支持枠体 3 X を支持するベース体 1 は、上下方向を厚さ方向とする平板状に形成されている。上方からベース体 1 を見ると面積が広く、ベース体 1 は視認性が高い。よって、スタンド 1 0 0 X をキャスト 1 7 によって移動させる際に、利用者はベース体 1 を視認できるため、利用者の下肢がベース体 1 に引っかかることが抑制される。

30

【0128】

なお、上述した実施の形態において示した各構成部材の諸形状や組み合わせ等は一例であって、本発明の主旨から逸脱しない範囲において設計要求等に基づき種々変更可能である。

【0129】

例えば、上記に示す実施形態では、ベース体 1 は、支持枠体 3 の前後両側に突出するように配置されているが、本発明はこれに限られない。ベース体 1 が支持枠体 3 の前後方向の片方にのみ配置されていてもよい。

40

【0130】

また、上記に示す実施形態では、錘部材 1 4 は、ベース体 1 の内部に配置されたベース枠部材 1 1 に取り付けられているが、本発明はこれに限られない。錘部材がベース体 1 の上面、側面、前後面及び下面等に取り付けられていてもよい。

【0131】

また、上記に示す実施形態では、錘部材 1 4 がベース枠部材 1 1 に取り付け可能とされているが、本発明はこれに限られない。錘部材 1 4 がベース枠部材 1 1 に取り付けられない構成であってもよい。

【0132】

また、上記に示す実施形態では、ベース体 1 は、前後方向視して、支持枠体 3 の左右方

50

向の範囲内に配置されているが、本発明はこれに限られない。ベース体 1 の左右方向の長さは、支持枠体 3 の左右方向の長さと同様であってもよい。あるいは、ベース体 1 が、支持枠体 3 の左右方向の端部よりも側方に突出しててもよい。

【0133】

また、上記に示す実施形態では、縦枠部材 30、上枠部材 33、下枠部材 35 及び横部材 4 には、それぞれ配線を配置可能な縦配線空間 s1、上配線空間 s2、下配線空間 s3 及び横配線空間 s4 が形成されているが、本発明はこれに限られない。縦枠部材 30、上枠部材 33、下枠部材 35 及び横部材 4 の内部に配線が配置できない構成であってもよい。

【0134】

また、上記に示す実施形態では、縦カバー 32A のカバー閉塞板部 321 と縦カバー 32B のカバー閉塞板部 321 との間が配線開口 324 とされているが、本発明はこれに限られない。配線貫通孔が、縦カバー 32 のカバー閉塞板部 321 を貫通するように形成されていてもよい。

10

【0135】

また、上記に示す本実施形態では、縦カバー 32 が、縦カバー 32A、32B、32C の3つの部材から構成されているが、本発明はこれに限られない。縦カバー 32 の数は適宜設定可能である。また、縦カバー 32 を縦外側枠 31 の略全長にわたって配置する必要はない。例えば、上枠部材 33 と下側のモニタ支持横材 51 との間に配線を通す必要が無い場合には、縦カバー 32 を設けず、縦配線空間 s1 が形成されないように縦枠部材 30 が構成されていてもよい。あるいは、配線が常時見えている方がよい場合には、縦カバー 32 を外した状態であってもよい。

20

【0136】

また、下カバー 37 は、カバー閉塞板部 371 と、カバー閉塞板部 371 の前後方向の両端部から下方に延び、下箱状部 36 の前側の前後面板部 361 の前方及び後側の前後面板部 361 の後方に配置される壁部を有し、下箱状部 36 の上部を外側から覆う構成であってもよい。

【0137】

また、縦カバー 32、下カバー 37 及び横カバー 43 にはマグネットが設けられ、磁力によってそれぞれ縦外側枠 31、下箱状部 36 及び横箱状部 41 に固着されているが、本発明はこれに限られない。縦カバー、下カバー及び横カバーの少なくとも一部が弾性変形可能に構成され、弾性変形することで縦外側枠、下箱状部 n 及び横箱状部に嵌合する構成であってもよい。

30

【0138】

また、上記に示す本実施形態では、内筒部材 62 は、左右方向を軸線方向とする角筒状をしているが、本発明はこれに限られない。内筒部材が、左右方向を軸線方向とする円筒状をしていてもよい。なお、外筒部材及び内筒部材のいずれか一方の断面形状が円形でなく、互いに一部が当接する構成であれば、外筒部材及び内筒部材が相対的に回転することが抑制される。

【符号の説明】

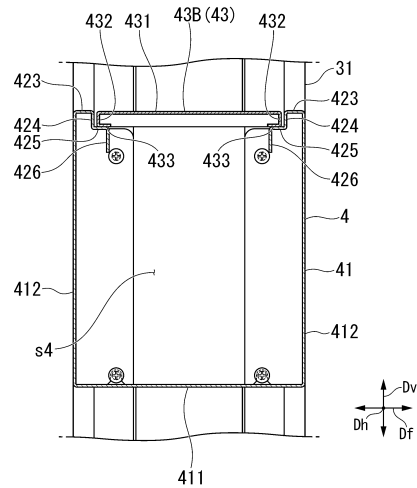
【0139】

1 ベース体、3、3X 支持枠体、4 横部材、5 モニタ支持体（モニタ支持部材）、10 ベース本体、11 ベース枠部材（取付部）、14 踵部材、17 キャスタ、20 ベースカバー材、30、30X 縦枠部材、31 縦外側枠（外側部）、32、32A、32B、32C 縦カバー（内側部）、35 下枠部材、36 下箱状部（第一下側部）、37、37A、37B、37C 下カバー（第一上側部）、38 把手、41 横箱状部（第二下側部）、43、43A、43B、43C 横カバー（第二上側部）、61 外筒部材（外筒部）、62 内筒部材（挿通部）、63 螺子（連結部）、100、100X、100Y スタンド、324、325 配線開口（配線貫通孔）、c1、c2 配線、M モニタ、s1 縦配線空間、s3 下配線空間、s4 横配線空間

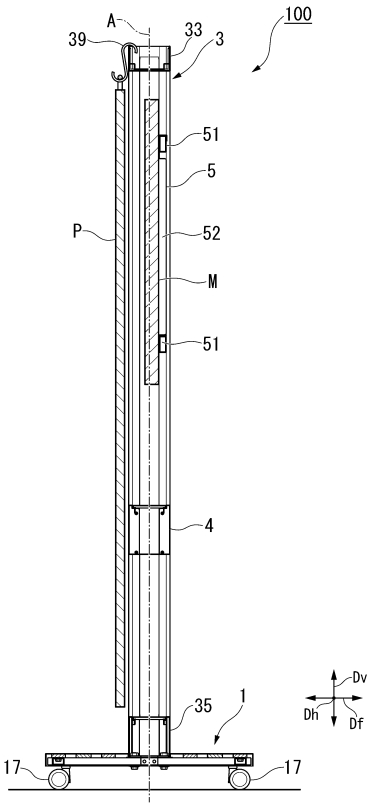
40

50

【図 9】



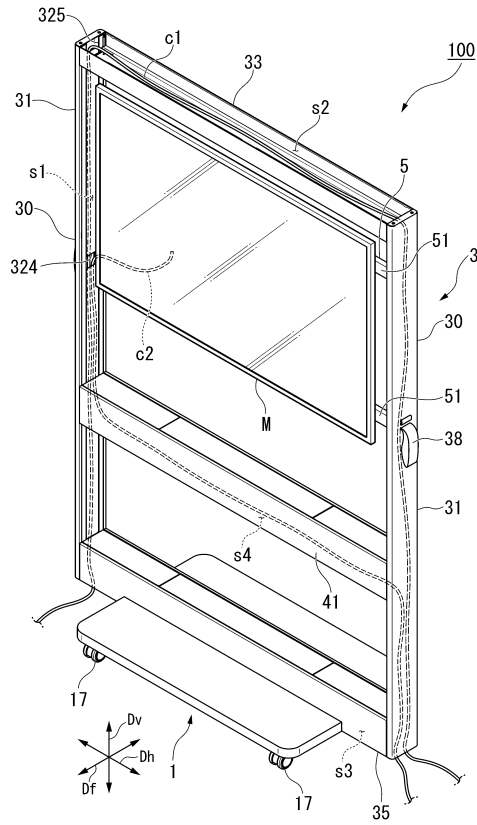
【図 10】



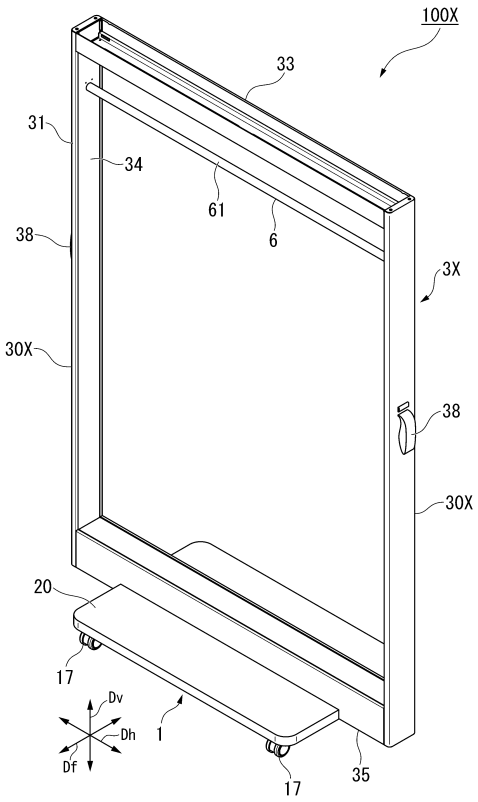
10

20

【図 11】



【図 12】

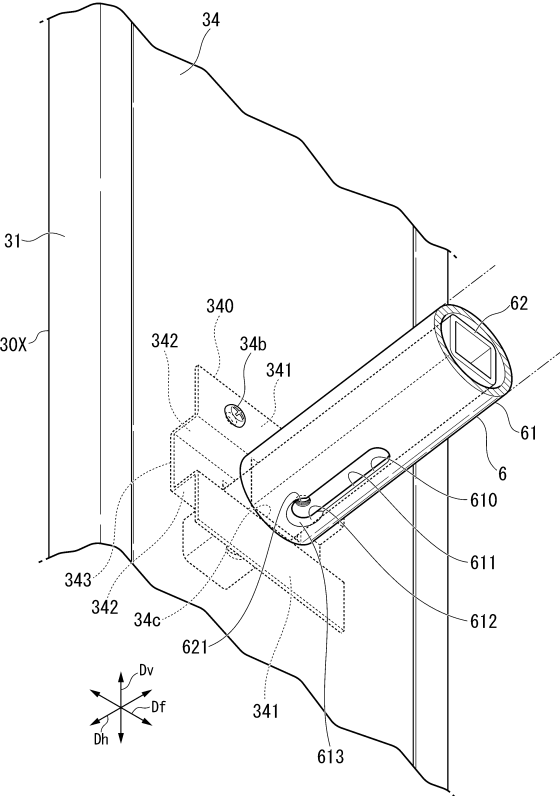


30

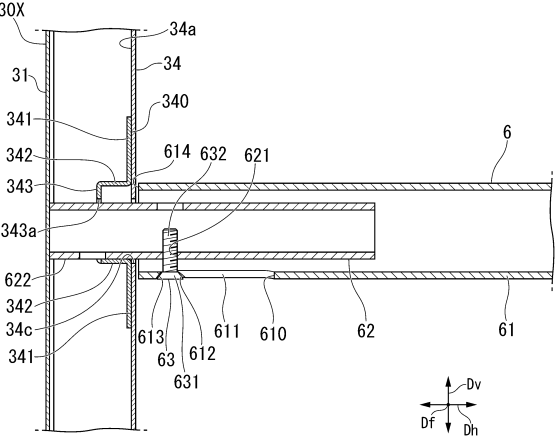
40

50

【図 1 3】



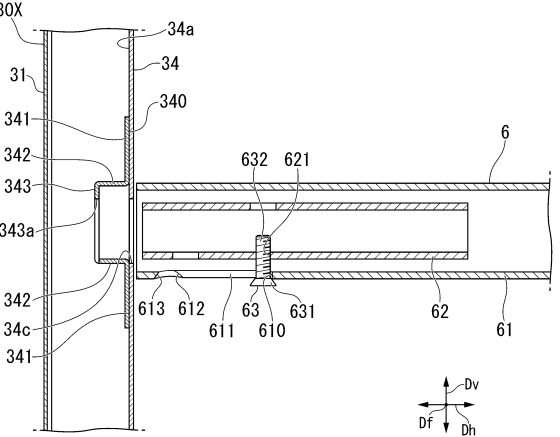
【図 1 4】



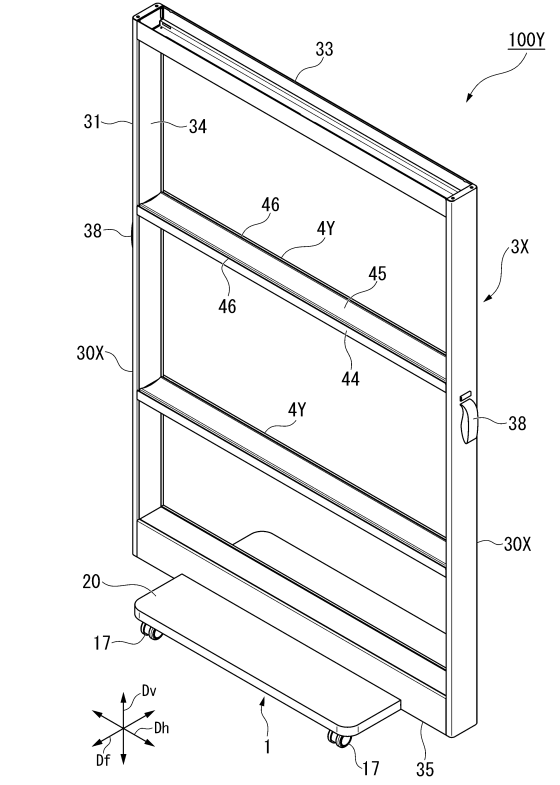
10

20

【図 1 5】



【図 1 6】



30

40

50

フロントページの続き

(51)国際特許分類	F I		
F 1 6 M 13/00 (2006.01)	F 1 6 M	11/22	G
F 1 6 M 13/02 (2006.01)	F 1 6 M	11/34	Z
	F 1 6 M	13/00	T
	F 1 6 M	13/02	S

神奈川県横浜市西区北幸二丁目7番18号 株式会社オカムラ内

審査官 中川 隆司

- (56)参考文献
- 米国特許出願公開第2011/0108684 (US, A1)
 - 中国実用新案第209278790 (CN, U)
 - 特開2008-241903 (JP, A)
 - 特開平11-204948 (JP, A)
 - 登録実用新案第3105699 (JP, U)
 - 特開2003-088437 (JP, A)
 - 米国特許出願公開第2019/0347060 (US, A1)
 - 実開平04-120656 (JP, U)

- (58)調査した分野 (Int.Cl., DB名)
- F 1 6 M 11/20
 - A 4 7 B 97/04
 - F 1 6 M 11/00
 - F 1 6 M 11/22
 - F 1 6 M 11/34
 - F 1 6 M 13/00
 - F 1 6 M 13/02